

## 平成 30 年度第 2 回岡崎市市民協働推進委員会会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

平成 31 年 3 月 24 日（日） 16 時 00 分～17 時 00 分

### 2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室 201

### 3 出席委員及び欠席委員の氏名

#### (1) 出席委員（8 名）

牛山 久仁彦 委員（明治大学政治経済学部教授）

関谷 みのぶ 委員（名古屋経済大学人間生活科学部准教授）

神尾 明幸 委員（岡崎市総代会連絡協議会会長）

石川 優 委員（岡崎市社会福祉協議会会長）

山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表）

野村 綾乃 委員（東海エリアの子育て応援サイト【マンマ・マーマ】編集長）

加藤 吉郎 委員（公募委員）

伊藤 智代 委員（公募委員）

#### (2) 欠席委員（2 名）

天野 裕 委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長）

林 みずほ 委員（岡崎商工会議所地域振興部長）

### 4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

河内佳子（社会文化部長）、草次君子（市民協働推進課長）、三浦健仁（同課副課長）、野澤成裕（同課活動支援係係長）、尾崎孝幸（主任主査）、中嶋正行（主査）、平井あいみ（主事）、太田悠紀子（主事）

### 5 傍聴者等

0 名

### 6 委員長挨拶

（内容省略）

### 7 議題

#### (1) 第 2 期岡崎市市民協働推進計画事業の評価の実施について

第 2 期岡崎市市民協働推進計画事業の評価の実施について、資料 1 -

## 1、資料1-2、資料1（参考）により説明

<以下、各委員の意見等>

委員長：事業に対する実施状況の自己評価は担当課が評価するのか。

事務局：提出された担当課の自己評価を基に、市民協働推進委員の意見を反映し評価の修正を行います。

委員長：委員会での評価はどのように行うか。また、資料には記載されるのか。

事務局：担当課と事務局で自己評価を行い、それに対して委員会の会議の場で評価をしていただいたうえで、最終的に委員会の評価を記載する予定です。

### (2) 市民活動団体アンケートの実施概要について

市民活動団体アンケートの実施概要について、資料2により説明

<以下、各委員の意見等>

委員：市民活動団体に対するアンケートの調査内容について、質問項目の大項目では大きく分類すると4項目となるが、質問自体の数としてはどのぐらいのボリューム感になるのか。

事務局：質問項目の大項目については資料2のとおり考えています。アンケートの質問自体が多くなると、回答率が下がることも考えられます。今後事務局でアンケート案を作成し、委員の皆様の意見を反映し調査を実施していく考えです。

委員：質問の語句については、なるべくわかりやすい言葉で実施してもらいたい。

事務局：質問については、わかりやすい言葉を使用し、専門用語がある場合は言葉の説明を入れるようにします。

委員長：具体的な市民活動団体に対するアンケートの案については、次回

の委員会で事務局案が提出されるということか。

事務局：次回の委員会などで事務局案を提示する予定です。

委員：このような市民活動団体に対するアンケートは過去又は定期的  
に実施しているのか、それとも今回が初めてか。

事務局：平成 26 年度に第 2 期岡崎市市民協働推進計画を策定した際も市民  
活動団体に対するアンケートを実施しております。  
今回の質問項目のいくつかは、前回のアンケートと同じですので、  
経年の変化を比較することができると考えております。

委員：経年の変化で比較が必要な質問と、計画の主要な部分に即した質  
問を個別に設けることで市民活動団体の意識の変化が見ることが  
できると思うが。

事務局：アンケートを作成する中で委員の皆様にご意見をいただき参考にさ  
せていただきます。

委員長：市民活動団体同士や市民活動団体と行政をつなぐような役割を持  
つ「中間支援団体」に期待する役割や、要望等についての質問、  
行政に期待する支援方法についても聞いておいたほうがよいと  
思う。

(3) 岡崎市市民公益活動事業費補助金について  
岡崎市市民公益活動事業費補助金について、資料 3 により説明

<以下、各委員の意見等>

委員長：プレゼンテーションと質疑を含め 10 分となっているが、質疑を  
する時間を十分に確保するという点からも、委員は事前に資料を  
確認することとし、プレゼンテーションの時間は短く 2 分程度に  
設定したほうがよい。残りの時間を質疑に充てられるようにして  
はどうか。

委員：事前に委員が資料を見るにあたって、事務局の書類審査について  
は特に審査を厳格に行っていただきたい。

委員：補助の内容については、変更はないということか。

事務局：第2期については、現在の補助要綱の中で進めていくこととし、次期の計画の中で市民活動団体に対する支援の在り方について、委員の皆様からの意見を踏まえつつ組み立てていきたいと考えています。

委員：プレゼンテーションの時間が短くなることで、プレゼンテーションに慣れていない団体は、この時間の中で何を審査員に伝えなければならないのかがわからない。事前にプレゼンテーションの資料の作成の方法等を団体に示しておけば審査員も理解しやすい。

委員長：決められた時間の中でプレゼンテーションを行うことも団体の能力である。

委員：審査会の中で、プレゼンテーションの時間は不公平になるため厳密に管理されなければならない。

事務局：審査の細かな手順につきましては、委員の皆様からの意見も踏まえながら次の審査会に向け準備いたします。

委員長：当面の補助金の審査会の審査方法については事務局案のとおりとし、プレゼンテーションの時間は2分程度。残りの時間で質疑を行うこととする。

委員の皆様は、事前に団体から提出された資料を確認した上でプレゼンテーション及び資料内容から質疑を行うこととする。

－ 会 議 終 了 －